

Rescue dogs

Mission Readiness Test in Asia

:日付 2008. 9. 25~28

:場所 ソウル ヨンギン市 韓国

:主催 IRO 国際救助犬連盟

*Mission Readiness Test とは？

IRO（国際救助犬連盟）と **INSARAG**（国際搜索救助アドバイザーグループ、国連の下部組織）による国際的に統一された救助犬とハンドラー、リーダーのための出動準備試験。

チームリーダー、救助犬3頭とその指導手が一つのチームを作り、7か所の瓦礫現場を探索（2か所の夜間探索を含む）、GPSを使った10Kmの行軍、人間と犬の応急手当、INSARAGマーキングシグナルのペーパーテスト、ビル3階からのロープ降下テストなど、多国間での協力体制を想定した（基本言語は英語かドイツ語）試験です

今回、アジア地域では初めての開催となりました

参加国は日本、韓国、台湾、タイ、から27頭の救助犬とそのハンドラーが9つのチームに分かれ、それぞれのチームリーダーと共に受験しました

今回、OPDESからの参加は私とヘルパー一件通訳の方二人だけでしたが、どのような試験なのかほとんど分からないままの挑戦で、なおかつ悪天候の中、合計36時間に及ぶ過酷なスケジュールでしたがなんとか二人共無事に終了できました。



9月24日15:00 インチョン空港にてピックアップ



18:00 受付終了後、小雨の中テント設営

これ以降テスト終了までベースキャンプを出られない



左隣、台湾消防局、タイ RDA、韓国 119、KKC、SSRDC、RDTA (Japan) のテントが並びました
 設営後ただちに夕食の準備にとりかかりました。ほとんどレトルト食品でしたが、出場者同士で食糧の
 交換など楽しいひと時でした。



25日よいよ AM7:00より各チーム順番に捜索テスト開始です。20分捜索 移動 10分休憩を
 連続3回繰り返し、昼食の時間もほとんどなく午後からはローピング降下のテストです。



車で移動、約40分。降下訓練の会場では消防や救急関係の方々がおもむくものしく待ち構えていました。
 ビル3階屋上からの降下試験でした。途中一度ストップがかけられ、ヒヤッとさせられます。



休む間もなく人間と犬に関する救急法と応急手当の実技試験。シグナルの筆記テストが夕方7時まで
 続きました。



PM 23:00

いよいよ最難関の合計10キロ夜間行軍と2か所の瓦礫搜索の開始

GPSを頼りに無言で歩き続けました 5キロ-20分搜索-5キロ-20分搜索

テントに戻ったのは夜が明け始めた26日AM5:00でした



AM 7:00起床 朝食ののち最後の瓦礫現場2か所へ
車で約2時間の移動 地下室内無風状態の搜索



IRO 本部から派遣された審査員



苦楽を共にした同じチームのメンバー



無事帰還

今回、私とアイカ号のペアは残念ながら2回以上の誤告知で合格できませんでした、、、
が、今回の貴重な体験をもとに次回2年後には我が協会からさらに参加者を募り、再挑戦
するつもりです 頑張るぞ!!! しかし疲れた。。。。

OPDES 救助犬 澤田 和裕